

PANews

Vol. 21, No. 5, Sep. 2011

ISSN 1881-2864

PA ニュース

発行：日本生理人類学会

www.jspa.net

もくじ

▽大会のお知らせ	1
▽若手の会レポート	2
▽在外満喫	3
▽学会誌編集委員会便り	4
▽学会センサス	4
▽ from Editors	5

【大会のお知らせ】

第 65 回大会(大阪)のご案内

(第 3 報)

大会長 小谷賢太郎

関西大学システム理工学部

第 65 回大会を、下記の会期・会場で開催いたします。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

本大会では例年通り特別講演、一般口演、ポスターセッションと合わせて、今回初めて人類働態学会との合同シンポジウムを企画いたしました。

「高齢者の運動機能と日常生活」をテーマに両学会からの研究者の方に登壇いただき、生理人類学、人類働態学の二つの視点から、加齢をテーマに活発な議論をいただこうと考えております。また、特別講演は藍野大学教授・外池光雄先生に「マルチモーダル五感機能計測研究の現状と展望」と題して、ヒトの五感機能計測の最先端の話題をいただくことになりました。さらに、Case Western Reserve University (ケースウェスタンリザーブ大学)の Cynthia M. Beall 先生をお招きし、特別講演をいただくことが決定しました。Beall 先生は高地における人間の適応能の研究者として世界的にも著名な人類学者です。詳細につきましては、学会ホームページなどで随時お知らせする予定です。たくさんの会員の皆様と関西大学のキャンパスでお目にかかれることを心より楽しみにしております。ぜひ、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1) 会 期：2011 年 11 月 26 日(土)～ 27 日(日)

(午前 9 時開場)

2) 会 場：関西大学 100 周年記念会館

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35

(阪急千里線関大前駅より徒歩 5 分)

※地図等は学会ホームページでご確認ください

3) プログラム概要(予定)

○理事会・若手の会(11/25)

○一般口演(11/26・27)

○ポスターセッション(11/26・27)

※ポスター発表については A0(1189mm × 841mm)縦長のサイズでパネルをアレンジしています。

○シンポジウム(11/26)

○特別講演(11/26)

○評議員会(11/26)

○懇親会(11/26)

○総会(11/27)

■特別講演【1】 11 月 26 日(土)

論題「マルチモーダル五感機能計測研究の現状と展望」

外池光雄(藍野大学医療保健学部)

司会：小谷賢太郎(関西大学システム理工学部)

■特別講演【2】 11 月 27 日(日)

Cynthia M. Beall (Professor, Department of Anthropology, Case Western Reserve University)

■日本生理人類学会－人類働態学会第 1 回合同シンポジウム 11 月 26 日(土)

テーマ「高齢者の運動機能と日常生活」

総合司会：宮崎良文(千葉大学)、酒井一博(労働科学研究所)

演者：前田享史(北海道大学)「体温調節機能－成長と加齢－」
青柳 潔(長崎大学)「高齢者の運動機能と転倒・骨折」
植竹照雄(東京農工大学)「高齢者の自転車運転」
堀野定雄(神奈川大学)「長寿社会の交通安全」

4) 参加・発表申し込み等日程・方法

○演題申込締切：2011 年 9 月 26 日(月)

○抄録提出締切：2011 年 10 月 21 日(金)

※参加申込、発表申込の詳細(申込フォームなどの書式など)を学会ホームページ www.jspa.net に掲載いたしますので、ご確認をお願いします。

5) 大会参加費・懇親会費

■大会参加費

・10 月 21 日(金) 以前

正会員 6,000 円, 非会員 9,000 円

学生(正員/学生会員)2,000 円, 学生(非員)3,000 円

・10 月 22 日(土) 以後

正会員 7,000 円, 非会員 9,000 円

学生(正員/学生会員)3,000 円, 学生(非員)4,000 円

■懇親会費

正会員 4,000 円, 非会員 5,000 円

学生(正員/学生会員/非員) 2,000 円

■振込先(郵便振替)：日本生理人類学会第 65 回大会事務局 00970-3-163985

6) 大会事務局(問合せ先)

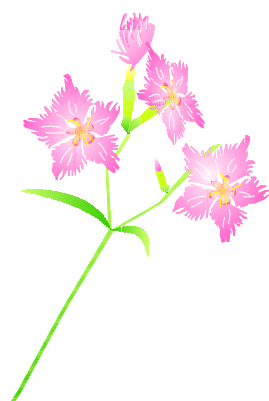
〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35

関西大学システム理工学部機械工学科人間工学研究室内

日本生理人類学会第 65 回大会事務局

E-mail: jspa65@kandai.ne.jp

Tel: 06-6368-1121 (内)5623 Fax: 06-6388-8785



【若手の会レポート】

第 17 回若手研究者発表会レポート

および

第 18 回若手研究者発表会の御案内

若林 斉(九州大学)

■第 17 回若手研究者発表会の報告

若手の会は、生理人類学の若手研究者同士の交流を深め、若手の研究の活性化を目的として活動しています。第 64 回大会の前日に行われました「第 17 回若手研究者発表会」について御報告いたします。

今回は飛奈卓郎さん(福岡大学)に「アンジオテンシン I 変換酵素遺伝子の多型と運動適応の関係」という題目で、また、安河内彦輝さん(総合研究大学院大学)に「ヒトと近縁霊長類における薬物代謝酵素遺伝子の分子進化」という題目で御発表いただきました。飛奈さんの発表では、アンジオテンシン I 変換酵素遺伝子の多型と運動パフォーマンスの関係や血圧調節に及ぼす影響について議論されました。また、安河内さんの発表では、近縁霊長類とヒトを比較した場合の分子進化の差異が薬物代謝などに与える影響およびその進化的意味を紹介いただきました。学会でも注目の集まる遺伝子をテーマとした発表ということで、若干難しい内容でしたが、分かりやすく説明していただき、遺伝要因への理解を深める良い機会となりました。今回は約 30 名の参加者により活発な議論が行われました。さらに、発表会後の懇親会では参加者間の交流が深められ、非常に有意義な会となりました。

本会の開催に際して、大会長の栃原裕先生には大会準備のお忙しいなか多大な御協力をいただきました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

■第 18 回若手研究者発表会の御案内

今回は第 65 回日本生理人類学会(関西大学)の前日に開催を予定しております。若手の国際化へ向けた企画として、Case Western Reserve University の Cynthia Beall 先生に高地適応に関する研究を分かりやすく御紹介いただこうと企画しております。合わせて、若手研究者の研究発表も行う予定です。詳細は学会ホームページで御案内させていただきます。

■今後の予定など

第 18 回以降の発表者を随時募集しております。現在進行中で研究結果がまとまっていないもので

も、参加者からの意見を聞くことができる貴重な機会となると思います。若手研究者の皆様のご発表とご参加をお待ちしております。また若手研究者の指導的立場にいらっしゃる先生方におかれましては、積極的な参加をお勧め下さいますようお願い申し上げます。

なお、次回大会より若手の会の代替わりをいたします。新会長は高橋隆宜君(大阪市立大学)、副会長は西村貴孝君(九州大学)になります。よろしくお願いします。

上記を含めた若手の会の行事等については、学会ホームページのほかに、メーリングリストでもお知らせしております。メーリングリストを含め上記に関する問い合わせについては、若林 斉(九州大学: waka @ design.kyushu-u.ac.jp)までお願いいたします。

【在外満喫】

フィンランドから Moi!

恒次祐子

(独)森林総合研究所



本年5月下旬より5ヶ月の予定でフィンランド森林研究所(Metla)に滞在しており、現在3ヵ月あまりが過ぎました。短い滞在ですが、こちらの様子などご紹介いたします。

こちらへは日本学術振興会の二国間交流事業「特定国派遣研究者」で派遣費をいただき滞っています。そもそものきっかけは同事業の「共同研究」が採択されたことでした。私たちの研究グループは国際森林研究機関連合の「Forest and Human Health」特別研究会でかれこれ4年ほどMetlaのグループと活動してきています。私の所属する森林総研とMetlaが研究提携をしているこ

ともあり、この2機関を中心に「森林浴」のテーマで共同研究を申請することになりました。共同研究採択後に「共同研究を進めるにあたって少しの間滞在したい」とMetlaに打診したところ受入れを快諾いただき、その後派遣の申請、採択に至りました。

フィンランドでは森林が古くから重要な資源のひとつであり、森林のレクリエーション利用も非常に盛んです。Metlaの研究グループはタンペレ大学心理学部との共同研究などにより、森林環境による心理面への影響の調査など行っています。一方私たちの研究グループは森林浴の生理的な効果について実際の森林環境における実験を重ねてきました。今回の共同研究は両国の手法を合わせて森林浴の効果を総合的に明らかにする手法を確立することを目的としており、メインの内容はフィンランドで生理測定を導入した森林浴実験を実施することです。なお、日本側は千葉大学、日本医科大学にも参画いただいております。フィンランド側の参画機関はMetla、国立保健福祉研究所とタンペレ大学です。

これを書いている現在、まさに3週間の実験の真っ最中です。ヘルシンキ近郊に勤務する中年の方々を対象とし、森林または都市環境下で生理指標を測定しています。実験直前までフィンランド全体が夏のホリデーシーズンであり準備も進まずどうなることかと思っていましたが、始まってみると被験者の方は時間きっちりに集合してくれるし、現場の研究者もいろいろと気を配りながら進めていて予想外に順調です。一般にフィンランドの人は真面目で責任感も強く、日本と近い感覚で被験者実験ができるように感じました。今回の実験では研究倫理ガイドラインにより被験者料が払えず、その代わりにPullaという甘いパンと飲み物をお持ち帰りいただいているのですが、この辺の気遣いも何となく日本人に通じる気がしてしまいます。

普段はヘルシンキ市内からお隣のヴァンター市にあるMetlaまで40分ほどかけてトラムと電車で通勤しています(写真は通勤路にある草原。奥にMetlaの建物が見えています)。皆さん朝早くから働き、大体16時ぐらいには帰ってしまうので所内は静かになります。夏は日が長く、仕事後に湖に泳ぎに行ったりピクニックをしたりしてゆっくり過ごすようです。特に夏至の頃には夜まで

夕方のような明るさが続き、外は短い夏を満喫しようとする人たちでいっぱいでした。そういえば何人かのフィンランド人から「夏はあまり寝ないけど、冬はやたらに眠くなるのでいっぱい寝る」と聞き、思わず Küller 先生の総説(JPA, 2002)を読み返してしまいました。帰る前に少しだけ眠い冬を経験できるかもしれません。

と、全体にのんびりしていて治安も良く暮らしやすいのですが、7 月にはノルウェーのテロがあり、北欧をはじめとするヨーロッパを震撼させました。フィンランドもノルウェーと同じく移民にオープンで、数ヶ月暮らしたぐらいでは分かりませんが、実際には微妙な緊張感もあるのだと思います。10 月に開催されるフィンランド人類学会の大会でもイスラム世界に関するセッションがあり、問題が身近であることをうかがわせます。ちなみに大会のプログラムを見る限りでは残念ながら生理人類学に近そうな内容は見当たりませんでした。ご興味があれば The Finnish Anthropological Society のウェブサイトをご参照ください(<http://www.antropologinenseura.fi/en/home/>)。

取り留めない内容になってしまいましたが、少しでも雰囲気伝われば幸いです。欲を言えばもう少し長くいたいですが、来られたことに感謝しています。最後になりましたが表題の「Moi!」は英語の「Hi!」にあたる挨拶の言葉です。2 回繰り返すと別れの挨拶になります。では Moi moi!

【学会誌編集委員会便り】

和文誌投稿規定変更

和文誌編集委員会

平成 23 年 7 月から日本生理人類学会誌(和文誌)の投稿規程を改訂しました。これまでの和文誌の編集作業では、原稿が受理された後に筆者自身が印刷用ゲラを作成していましたが、フォントや引用文献の形式、図表のサイズなどを統一するために、編集作業の一部を城島印刷所に依頼すると共に、査読システム全体の見直しを進めて参りました。

投稿規程の改訂に伴って、原稿送付票も大幅に改訂されています。特に和文抄録の添付と生理人類学的要素の記述等が盛り込まれております。詳しくは本学会ホームページ(<http://www.jspa.net/>)の当該箇所をご参照願います。

【学会センサス】

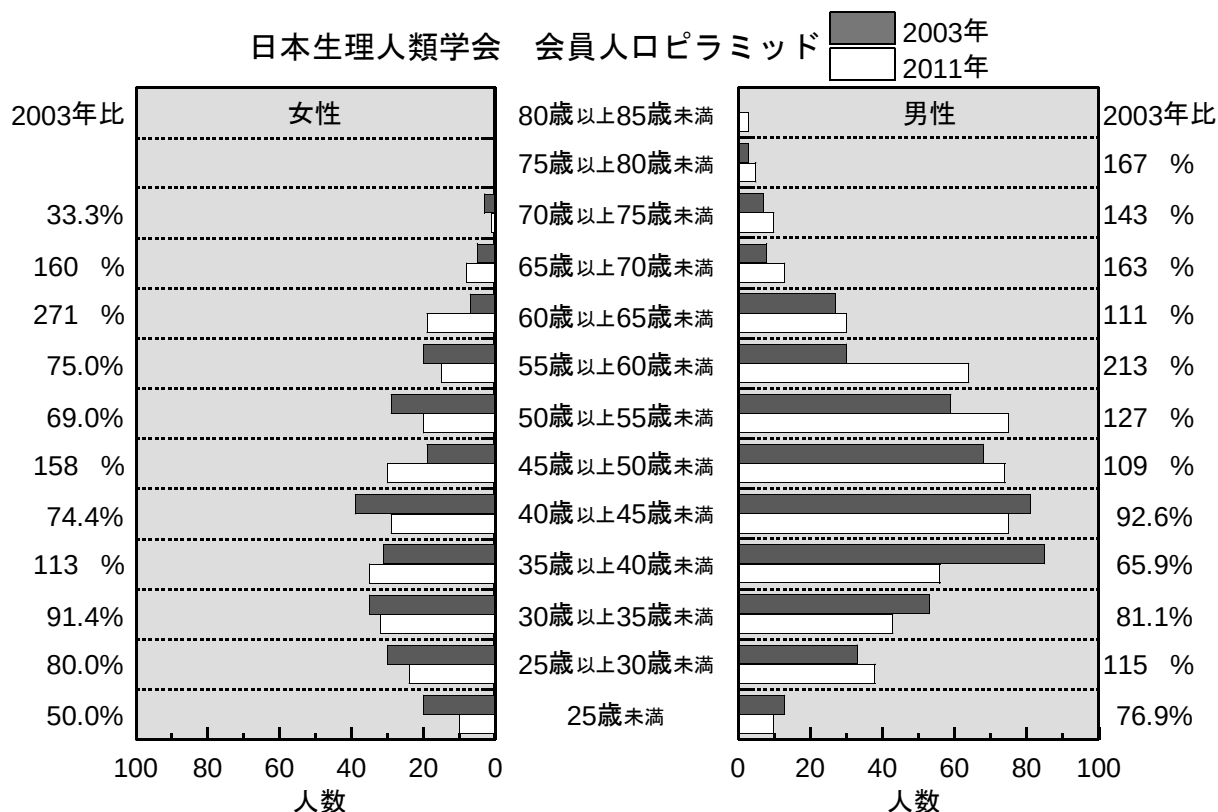
その 1: 学会人口ピラミッド

▽ PANews 第 13 巻 5 号(2003 年)に、当時の生理人類学会の会員年齢構成を示す人口ピラミッドが掲載されたことをご記憶の方もいらっしゃると思います。2003 年 6 月時点の学会の総会員数は 984 名(賛助会員や講読会員を含む)で、そのうち生年月日の判明している正会員は 705 名でした(全体の 71.6%)。男女の内訳は男性 467 名、女性 238 名で、男女比はほぼ 2:1 でした。このときの「人口ピラミッド」が示したのは、学会のコア世代が 35 ~ 45 歳であること、女性の方が男性よりも会員の世代分布が一様分布に近いこと、男性会員の平均年齢は 43.5 歳、女性は 40.8 歳、全体では 42.6 歳で、ちょうどコア世代に一致すること、などでした。

▽ あれから 8 年経過いたしました。今回の「学会センサス」では、2011 年 8 月時点での学会人口ピラミッドを披露し、8 年前との比較を試みたいと思います。2003 年版のピラミッドは 5 歳ごとに刻んだ年齢層の全体に占める割合で示されていました。2011 年版では人数で、しかも 2003 年のデータと一っしょにお示しします。

▽ 2011 年 8 月時点の総会員数は 855 名です。8 年前に比べて 100 名以上減っていますが、これは会費滞納者等の整理を進めたこと、および、会員区分を見直したことによるものです。年齢構成を調べるために必要となる生年月日の判明している正会員および学生会員数は 719 名(全体の 84.1 %)で、人数的には 8 年前とほとんど変わっていません。内訳は男性が 496 名、女性が 223 名となっており、8 年前よりも男性会員が増え、女性がやや減っています。

▽ 気になるのは平均年齢です。2011 年 8 月時点での男性会員の平均年齢は 45.7 歳(2.2 歳増)、女性会員は 43.8 歳(3.0 歳増)、全体平均は 2.5 歳増しの 45.1 歳で、8 年前に比べると少し歳をとりました。学会のコア世代も 35 ~ 45 歳から 40 ~ 50 歳にシフトしています。国立社会保障・人口問題研究所(www.ipss.go.jp)による 2002 年時の推計によれば、日本の 2003 年人口の平均年齢は 42.5 歳、2011 年は 44.9 歳(2.4 歳増し、2006 年の推計では 45.3 歳で 2.8 歳増し)となっており、当学会でもどうやら“少子高齢化”が静かに進行しているようです。50 歳以



会員数（賛助会員等を含む）
 生年月日の判明している会員数
 女性会員数／男性会員数
 平均年齢（全体）
 平均年齢（女性）
 平均年齢（男性）

	2003年6月	2011年8月
会員数	984名	855名
生年月日の判明している会員数	705名(71.6%)	719名(84.1%)
女性会員数／男性会員数	239名／467名	223名／496名
平均年齢（全体）	42.6歳	45.1歳
平均年齢（女性）	40.8歳	43.8歳
平均年齢（男性）	43.5歳	45.7歳

上の各年齢層における会員数の変化率(2003 年比)にも、特に男性において、その傾向が顕著に現れています。また、30 代後半の男性会員が、2003 年に比べて極端に減っていることも気がかりです。

▽悪いことばかりでもありません。25 ～ 35 歳の年齢層では、2003 年に比べて 8 割以上の会員数が維持されていますし、20 代後半の男性会員、30 代後半の女性会員が増えていることも心強い限りです。

▽次回の「学会センサス」のコーナーでも、学会の主役である会員の方々のこの 8 年間の変化を追跡したいと思います。



from Editors

次回 No.6 の原稿締切は 2011 年 11 月 1 日です

▽今号には 2 つの企画記事を盛り込みました。1 つは海外留学中もしくは帰国直後の方からの楽しい(羨ましい)手記を掲載する「在外満喫」。もう 1 つは、学会員の人口動態を探る「学会センサス」です。いずれも不定期掲載になるかと思いますが、ご最員のほどをよろしくお願い申し上げます。

▽次号の「在外満喫」には、米国・ロチェスター大学に本年 8 月後半から在外派遣される青木朋子先生（熊本県立大学環境共生学部）にご登場いただく予定です。青木先生は手の運動解析を専門とされており、人間工学や運動生理学分野で活発にご活躍されている若手研究者です。ロ

チェスター大学では、手の動きの脳-神経生理学的機序に迫る研究を予定されています。

▽関係学会の研究動向，留学先の様子，生理人類学関連書籍の書評などなど，みなさまからの投稿をお待ちしております．約 900 字で半ページとなります．ビジュアルに訴えるカラーの図版や写真也大歓迎です．紙版はモノクロ掲載ですが，学会ホームページで公開される PDF 版ではカラーのまま掲載されます．なお，記事の掲

載可否は PANews 編集事務局で決定いたしますので，あらかじめご了承ください．

▽ PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター
仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科

メールアドレス panews@jspa.net

※原稿，お問い合わせなどはこのメールアドレス宛にお送りください．